



大韓民國 京畿道 安山市 檀國區 芸術大學路 171, ソウル芸術大學
(15263)

171, Yesuldaehak-ro, Danwon-gu, Ansan-si, Gyeonggi-do,
Korea (15263)

E-mail. intl2@seoularts.ac.kr

Website. www.seoularts.ac.kr / www.seoulartsintl.com (Eng.)

Tel. +82-31-412-7426, 7427, 7429 Fax. +82-31-412-7409

서울예술대학교

SEOUL INSTITUTE Of The ARTS

서울예술대학교
SEOUL INSTITUTE OF THE ARTS

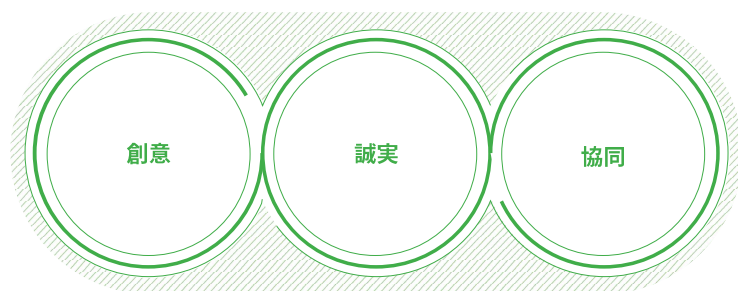
Vision 2025 · Information · Guide Map

設立理念

我が民族の芸術魂の顕在化とグローバルゼーション

我が民族の芸術魂と伝統を受け継ぎ、それを今日に広く顕在化させ、未知の芸術に向けた実験的探究と創作の先駆けとなること。そして、世界性と主体性を追究する独創的作業や専門教育を通じて、新たな芸術世界を切り拓くクリエイティブな芸術家を育成することで、真正の美の真理を悟り我が国と人類繁栄に貢献する。

教訓



教育目標

01

主体的文化芸術家の育成

我が国固有の民族情緒と知恵を現代芸術に融合させる創意力と技芸を練磨し、世界の舞台で活躍できる創作活動を追究する。

02

実験的専門作家の育成

探究力と実験精神を強化し、世界文化の多様性と新しい潮流を受け入れ、最先端の媒体と技法を学ぶことで、未来志向の創作力を身に付ける。

03

世界的文化先導者の育成

自主的な文化意識と独創的な想像力を有する芸術創造者と触媒の人材を輩出することで、人類の美しい生活と世界文芸の振興に貢献する。

人材像

創意・協業・人間性を兼ね備えた グローバル融合芸術家

4大指標

世界的な教育創作環境の構築

01.

今日、世界は「グローバル・ヴィレッジ^{地球村}」と呼ばれるほどリアルタイムで影響し合う、小さな空間になりました。ソウル芸術大学は、宇宙の真理と自然親和性を持つ芸術の創造を目指すと同時に、我々の芸術こそが世界的芸術になれるよう、グローバル創作環境の構築に最善を尽くします。構築に最善を尽くします。

連携・循環・統合教育

02.

様々な分野が絡み合い進化を続けている21世紀。我々はすべての芸術が特定のジャンルを越え、その領域を無限に拡大していく時代に生きています。このような変化を主導するために、系列を拡大し専攻を深く追究する、連携・循環・統合教育を実施していきます。

産学協力の強化

03.

今日の芸術創作は、キャンパス内にとどまらず産業現場との緊密な連携のもとに行われています。我が校は、優秀な教授陣や産業現場の専門家が協力し合うことで、在学生の研究活動と芸術創業を支援するインキュベーション・システムを構築しています。

芸術と科学の融合

04.

デジタル時代を迎え、様々な先端技術が芸術に導入されたことで、かつては想像できなかった形で創作活動が行われています。我が校は、この潮流を主導するために科学技術を融合させた芸術教育を実施しています。

ビジョン体系：VISION 2025

設立理念

我が民族の芸術魂の顕在化とグローバリゼーション

ビジョン

公演芸術とメディア創作分野における世界最高水準の芸術大学

ビジョン 目標

グローバル
芸術教育の実現
(グローバル
芸術教育指数)

創意的
融合芸術の先導
(融合創作指数)

文化芸術を
通じた社会貢献
(社会貢献指数)

戦略方向

グローバル
力量の強化
Glocal CultureHub

芸術教育の
品質向上
Advanced Education

産学官
協力関係の強化
Reinforced Network

融合創作
力量の強化
Transcendent
Convergence

持続可能な
経営
Sustainable
Management

戦略課題

芸術教育における
国際通用性の確保
Global

教育内容および教
育方法の革新

学位制度の
柔軟性確保

現場密着型
産学協力の強化

社会的影響力を持
つエンターテイン
メントの推進

連携・循環・統合
教育の強化

ATB
Art-Technology
Business
融合の推進

行政効率性の
引き上げ

構成員の参加と
疎通の強化

民族芸術魂の
顕在化
Local

持続的な教育
品質管理

教育・創作
インフラの拡充

就職・起業力量
強化の支援

財政健全性の
確保

附属付設機関案内

カルチャーハブ

ソウル芸術大学は、世界の文化芸術の主要拠点である米国のニューヨークとロサンゼルス、イタリアのスポレート、インドネシアのバンドンに「カルチャーハブCultureHub」を構築し、我々固有の文化芸術と世界の文化芸術を結びつけており、世界の各カルチャーハブCultureHubとソウル芸術大学の芸術工学センターATECに「Tele-Presenceテレプレゼンス^{〔遠隔即時〕}」を利用した遠隔パースナルスタジオを設置し、ネットワークを通じた教育および実験研究とニューフォームアートの創作を目指した実験の場を設けている。カルチャーハブCultureHubは、芸術と技術を融合させた我々固有のアイデンティティを持つ創意的かつ革新的な芸術を、優秀な海外アーティストたちと共に、様々なかたちのグローバルコンテンツとして制作できる環境を提供する。①教育、②研究実験およびレジデンス・プログラムを運営し、最終的に③グローバル創作プロジェクトに連携できるよう推進している。

芸術創造センターACC

21世紀文化経済時代の到来により、次世代の成長主導産業として文化芸術産業が注目されており、それに伴い文化産業インフラの融合を可能にする文化産業クラスター構築の需要が高まっている。このような時代的ニーズを反映し、ソウル芸術大学は関連産業体や自治体、芸術団体、協力機関、専門家などと連携することで芸術人材を持続的に育成し、創作を行なう文化芸術クラスターとして「芸術創造センターACC」を運営している。ソウル芸大・東朗センターは、「芸術創造センターACC」の事業を行う代表窓口として、芸術専門教育と芸術現場体験を連携する芸術機関である。1962年に設立されたドラマセンターを中心に、多くの公演・メディアスタジオを運営している。

芸術工学センターATEC

ソウル芸術大学は、2007年に芸術と科学が共存する芸術工学センターATECを設立し、芸術創作パラダイムの革新を推進している。芸術工学センターATECは、映像や音楽、展示、公演がそれぞれ連携・循環・統合できる研究創作空間と、先端スタジオやマルチメディア映像設備を有する多次元のMultidimensionalな空間を兼ね備えており、デジタル文化コンテンツ分野の専門人材を育成する環境づくりを行なっている。デジタル文化コンテンツ分野のインテンシブ教育、隣接する芸術分野との統合教育を実施する一方で、世界有数の大学・産業体・専門家との交流を通じて、ソウル芸術大学の設立理念である伝統的グローバリゼーションに加え、実験と挑戦が息づく研究と創作を実現させる様々な方策を講じている。

創作実習支援センター

「世界的な芸術大学」というビジョンを達成するために設立された、ソウル芸術大学「流」を目指す創作実習教育支援専門家機関である。ここですべての実習機材、実習費用、実習室などを運営・維持管理しており、持続的な教育環境の改善と創意的コンテンツ制作実習のための連携・循環・統合の融合教育を支援し、創意的人材育成のための専門家中心の技術を支援している。

文化芸術産業融合センターCAICC

文化芸術産業融合センターは、現場実習と創作、文化芸術と産業化の研究を支援する施設として2012年、創立50周年を記念して設立された。芸術教育と文化芸術産業の融合R&Dセンターとして、新たな芸術を創造し文化的価値と機会を創出する複合的文化空間であると共に、生活が芸術を宿し芸術が生活を宿す「生活の芸術」と、社会的企業の活性化のための空間である。安山キャンパスと連携し、新しい芸術創造の方法論を模索する実験・実習・教育・研究空間として活用しており、芸術工学センターATECとの連携を通じて、芸術と科学の融合や教育と現場の連結などを実験することで、社会との疎通を図っている。芸術家教授、インターン専門学士課程の学生、レジデント^{〔学士課程の学生〕}間の協業システムを通じて現場教育を強化しており、国内で初めてプロダクションとの創造的素材の開発が有機的かつ統合的に運用される新形態のトータルスタジオを構築し、卒業後の指導および再教育の場として活用されている。

産学協力団

産学協力団は2004年、公演芸術および映画・映像・ニューメディア分野において世界最高水準の芸術教育を目指す我が校の産学協力の活性化を目的として設立された。産学協力団は我が校を代表し、政府機関・自治体およびその他関連機関との契約権を行使し、国公立および民間の文化芸術企業間で締結された各種産学協力事業費の受け取りおよび会計管理業務を担っている。国内外の文化芸術産業体との有機的な交流・協力関係を基盤とし、在学生を対象とした現場実習教育とキャップストーン教育、さらには卒業生の就職率向上に有用な創意的かつ実験的な芸術コンテンツ制作プロジェクトを行い、創意・協業・人間性を兼ね備えたグローバル融合芸術人材の育成に注力している。また専攻同士が相互連携・交流・循環・統合する多機能的現場実習型芸術創作教育の環境づくりに向け、校内関連機関（産学協力団傘下の芸術工学センターATEC、芸術創造センターACC、文化芸術産業融合センターCAICC）間の相互協力支援システムを構築し、グローバル文化コンテンツ産業を先導する世界的芸術大学の地位を確立するために努力している。

芸術情報センター

1963年に演劇図書館として開館して以来、芸術分野において卓出したコレクション収集力と創作物デジタルアーカイブ運営で、文化芸術界の発展に大きく貢献してきた。特に、人間の持つ創造性こそが第4次産業革命時代に対応できる鍵とした大学の哲学に則り、創作インスピレーションを極大化する図書館サービスの構築を目標に、SPACE・DIGITAL・NANO・BIO・NATUREの5つを五感で体験できる経験型図書館を運営している。

公演創作学部 | メディア創作学部

学士課程は、1年間の専攻インテンシブ教育で構成された「芸術創作専門教育課程」となっています。指導教授の個別指導[※]を通じて専攻を深く学び、学部と専攻間の境界を越え、他専攻とのチームティーチング融合教育を通じて、学生自らが自身の作品を創作できるようサポートします。個人対個人の小規模集中連携教育から、グループ対グループで交流する大規模統合教育[※]など、様々な方法で創作の地平を広げます。このように専攻を新たに応用し系列を広げることで専攻分野を深く追究しています。さらに芸術工学センター[※]や文化芸術産業融合センター[※]などの附属機関を基盤とし、様々な専攻同士の協業を通じて科学技術を取り入れた芸術教育を実施しています。

公演創作学部

21世紀を先導する芸術教育と新芸術創作活動

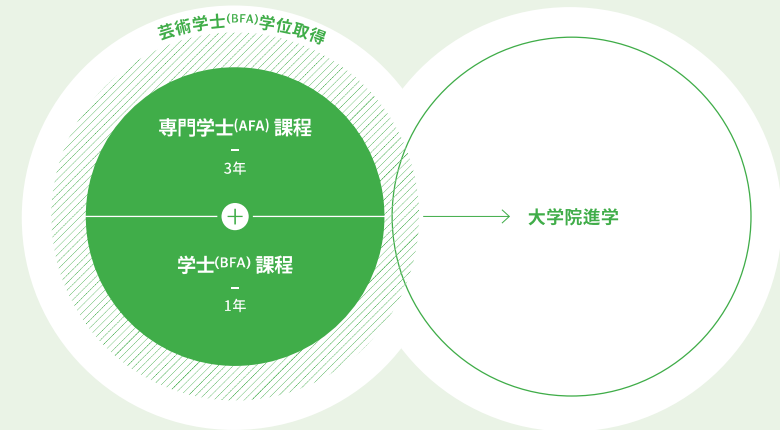
公演芸術とは、音楽・舞踊・演劇など、公開の場で演奏・上演・歌唱・演出される芸術形態を指す。公演創作学部では、これらの公演芸術と直接的に関わりのある演劇、映像、舞踊、音楽などの専攻を統合し、各専攻別インテンシブ教育を実施している。既存の専攻別芸術教育の枠組みを越え、「系列を広げ、専攻を深める」というモットーに基づき、よりアップグレードした未来型公演創作プログラムを運営している。この全方位的な芸術創作教育を通じて、社会または産業界が求める競争力のある専門芸術人材を輩出することを目指し、我が国の公演芸術および関連産業の発展に貢献することを目指している。

メディア創作学部

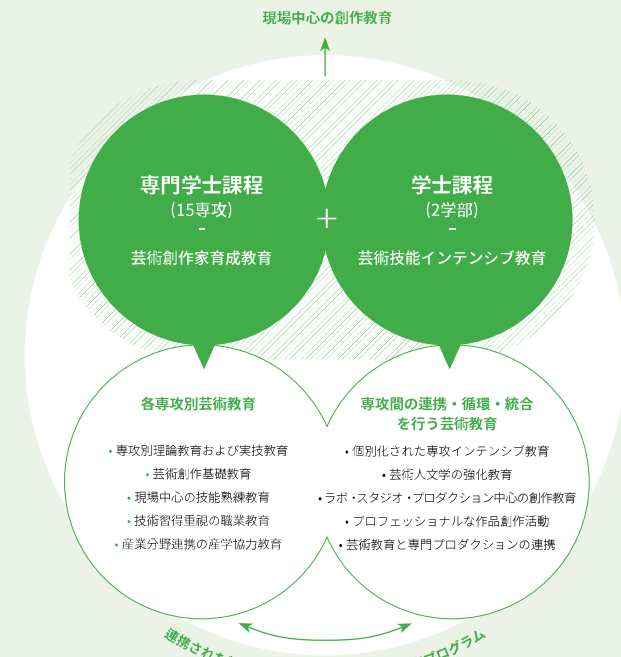
デジタル化・マルチメディア化時代に合う新たな芸術教育と創作パラダイムを提示

メディア創作学部は、デジタル化・マルチメディア化の潮流に合わせるため文字や画像、映像など様々なメディア芸術分野を統合することでシナジー効果を高め、既存の芸術形態や作業方法の枠組みを越え、各ジャンル間の芸術的衝突と実験という新たな芸術教育と創作パラダイムを提示している。そのためにコンピュータ、通信、放送、新聞、映画、出版産業などが互いに統合・協力し合い、世界的潮流を先導できるよう、専門の芸術家を育成している。このような独創的な教育・創作システムによって生まれ変わった専門人材と創作作品を通じて、文化芸術界に活力を吹き込み、我々の芸術を世界的水準にまで引き上げることに貢献することを目指している。

芸術学士取得過程と大学院への進学



専門学士課程と学士課程の連携および差別化戦略



専門学士課程

専門学士課程は、演劇、舞踊、演技、映画、放送映像、デジタルアート、韓国音楽、実用音楽、文芸創作、劇作、視覚デザイン、写真、空間デザイン、広告創作、芸術経営の15の専攻で編成されています。1962年の韓国演劇アカデミー設立を皮切りに、創造的芸術家の育成に向けた専門的な芸術教育の旗印を掲げたソウル芸術大学専門学士課程は、専門芸術家の育成と、世界の人々が共に楽しむ民族文化芸術を創造するため、絶え間ない努力を重ねてきました。

今日ソウル芸術大学が輩出した文化芸術界の多くのスタープレイヤーたちは韓国文化芸術界全般で活躍し、すでにひとつの芸術学派を形成しています。科学と芸術が融合する21世紀、ソウル芸術大学は芸術と科学を融合させ、デジタル時代の新しい芸術創造を先導しており、グローバルカルチャーハブを通じて世界の芸術とリアルタイムで繋がる**テレプレゼンス**教育の新たなページを開いています。



専門学士課程は、3年間の芸術分野別基本素養と機能完成を目指し、現場中心の技術習得教育を強調します。専攻別に創作の基礎を刻んだ後、製作実習を通じて創作方法を習得し、公演と展示を通じて専攻技術を点検します。同時に、様々な産業分野と連携した現場実習を通じて職業教育を強化しています。専門学士課程の「公演学部」は演劇、舞踊、演技、「映像学部」は映画、放送映像、デジタルアート、「音楽学部」は韓国音楽、実用音楽、「文芸学部」は文芸創作、劇作、デザイン学部は視覚デザイン、写真、空間デザイン、「コミュニケーション学部」は広告創作、芸術経営で構成され運営されています。

公演学部

School of Performance



演劇専攻

歴史と伝統が息づく

韓国最古の歴史と最高の伝統を誇るソウル芸術大学演劇専攻は、韓国現代演劇の中心で草分け的な存在として君臨し、今もなお絶えず成長している。演劇教育とは講義室の授業で終わるに非ず、舞台上の創作現場で行われるものであるという信条のもとに教育と創作を並行しており、伝統と現代、芸術と科学、精神と技術を身につけ、各々の才能を練磨する機会を提供している。さらに2007年の演技専攻発足に伴って公演制作教育に集中し、専攻別に自ら作品を制作させ、経歴を積み重ねる機会も提供している。

舞踊専攻

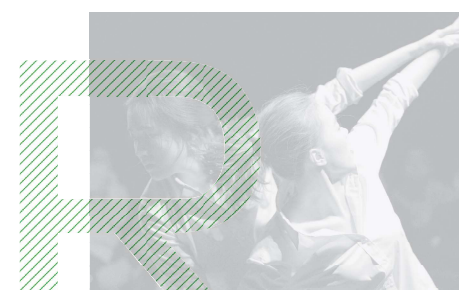
本能を呼び覚まし、才能を育む

舞踊専攻では、韓国舞踊、現代舞踊、実用舞踊の様々なジャンルを同時に体得するハイレベルな実技教育を通じて、専門性と独創性を兼ね備えた専門舞踊家を育成し、国内および世界で韓国を輝かす舞踊手、振付師、舞踊教育者を育成することを最終的な目標としている。これに伴い、人文学をもとに我々の踊りのアイデンティティと芸術魂を分析しオリジナリティのある舞踊観を確立させるための理論教育と、新しい芸術を創造し同時代の芸術的潮流を主導する舞踊芸術家を育成するための実技教育、インターンシップを通じた国内外の現場実務教育を行っている。

演技専攻

柔軟な思考と瞬発力で世界の舞台を見据える

演技専攻では、演劇、ミュージカル、映画、放送などのマルチメディアの場で演者の体や声、想像力・創意力を駆使して人物を創作・実演し、能動的に共同創作作業に取り組む演技専門芸術家を育成することを目標としている。専門教育と実習訓練を通じて同時代の芸術的潮流を反映して産業界においてリーダーの役割を担える演者を育成し、理論と実技を兼ね備えた立体的な教育課程を運営している。公演分野では、舞台で求められる発声や話術、歌唱力、演技および動作訓練を通じて、様々なかたちの演劇、ミュージカル制作および融合的作業に参加する。映像分野では、放送・映画制作を通じて様々なメディア関連の演技技術を鍛える。



映像学部

School of Film and Media Arts

映画専攻

自分と相手の壁を越える

映画専攻では、実習と理論授業のバランスがとれたカリキュラムとなっており、インテンシブかつ専門的な授業を行うため、プロダクション科目および連携科目を初級・中級・上級に分け、基礎から段階的に学習できる。学年毎のレベルと制作状況を考慮したレベル別プロダクションを運営しており、「シナリオビッチ」を通じて切磋琢磨し合い、作品のクオリティ向上を図っている。また芸術経営専攻と連携してプロデューサートラックを新設し、実務教育および現場での経験・体験を通じて良質の教育効果を狙う。他にも各学年で責任指導教授を選定し、授業外でも映画全般に関する幅広い知識を習得できるシステムを構築・運営している。

放送映像専攻

不屈の精神を以て世界と向き合う

放送映像専攻では、激しく移り変わる電波媒体の現場においてメディアの発展を先導し、創作家として芸術的才能と職人気質を融合させる研究を行っている。放送映像専攻の教育内容は、放送現場で活躍する専門家を育成するための基礎的な理論科目を除き、大半が実技と実習で占められている。放送制作において中核的役割を担う演出、撮影、編集、音響に関するインテンシブな教育を実施し、それ以外にも企画、放送台本、照明などの教育課程を提供している。実質的かつ合理的な教育を通じて、演出、撮影、編集、音響、照明など放送制作現場における各分野の最高の人材を輩出している。

デジタルアート専攻

科学技術と文化芸術を融合させ、未来を創る

デジタルアート専攻は、インタラクティブ・アート相互作用芸術の細部専攻と、クリエイティブ・テクノロジー芸術工学の細部専攻に分けられる。「インタラクティブ・アート」は、インタラクティブ・ビデオ、3Dグラフィック、ステレオおよびホログラム映像、立体造形およびキネティック・アート、モバイルおよびネットアート、4D映画、機能性アートゲームなど新しいメディア技術を適用した芸術創作能力を高めることで、芸術および産業現場に適した芸術家を育成する。「クリエイティブ・テクノロジー」は、数学と工学を基礎とし、センサーおよびデジタル回路ハードウェア、コンピュータ・プログラミング・ソフトウェア、ロボットおよびメカトロニクス機械器具、音響および映像機器のデザイン・制作など新ジャンルの芸術のためのメディア技術を開発し、実現能力を高めることで、芸術および産業現場に適した文化技術の専門家を育成する。

音楽学部

School of Music

韓国音楽専攻

伝統と現代を融合させ、音楽の未来を拓く

韓国音楽専攻では、民族芸術魂の根幹となる伝統に根ざし、器楽・声楽・打楽・作曲など、各細部専攻の領域別特性化力量教育を通じて、専門性の修養を図っている。そしてこの教育により、伝統音楽を発展的に継承し世界音楽の動向を見極め、その変化と多様性を受け入れられる開放的芸術人材を輩出している。器楽専攻は楽器別に、声楽専攻はジャンル別に、打楽専攻は風物^{フンムル}演劇の楽器別に細部専攻を分け、インテンシブな実技教育を実施している。また、新鮮で多様性のある公演を創出する総合芸術家に成長できるよう、インテンシブな専攻課程と共に、隣接学問との多様なアプローチと融合を試みている。伝統音楽の大衆化、普及化、現代化に合わせ、グローバリゼーションを先導することを目標に、世界の中の韓国音楽の領域を拡大させるための教育を実施している。

実用音楽専攻

若さの覇気がほとばしる

実用音楽専攻では、我が国の伝統音楽に根付きながらも大衆性と芸術性を同時に追求することで、ニューメディア時代の独自の領域を開拓している。放送音楽、媒体音楽、映画音楽、広告音楽、公演、ミュージカルなどその領域を拡大し続けている実用音楽分野に関する実質的な教育を通じて、職業音楽家としての基本姿勢と方向性を身につける。実用音楽専攻は、歌、作曲、演奏、電子音楽、音響デザイン、DJ専攻に分かれており、創作専門訓練および学習を通じて、様々な大衆音楽分野の専門芸術家を輩出する。このような実質的かつ合理的な教育を通じて、歌手、作曲家、作詞家、編曲家、セッションなどの大衆音楽分野を主導していく専門音楽家を輩出している。

文芸創作専攻

己の直感を信じる

韓国語の表現能力を練磨し、文学における各ジャンルの創作家としての基礎的な能力を高める。韓国の伝統文学と普遍的な世界文学に対する統合的理解を深め、これを未来志向的に融合させ、芸術一般に対する理解と人文学的素養に基づく創作能力を向上させる。特に時代の変化に合わせ、文学ジャンル間の連携だけでなく、他媒体との創作交流ができるマルチメディア志向の文学芸術家を輩出することを目的としている。このような教育目標を達成するために、文学における各ジャンルへの理解と創作実技能力を高め、文学作品に対する分析能力を修養し、編集と出版における基礎的な業務能力を習得、新しいジャンルと様々な媒体に対する文化的理解を高めることで創作連携能力を育成している。

劇作専攻

ドラマはここから始まる

劇作専攻では、演劇舞台のための戯曲、映画シナリオ、ドラマ脚本など様々な創作分野に適用される理論と実技の調和を追究している。戯曲作家、映画作家、ドラマ作家、ウェブコンテンツのストーリーテラーなど様々な分野の作家志望者を対象に、ドラマの基礎理論と実質的な創作能力を育成し、作家になるために必要な独創的な創意力と劇的構想力、芸術的感覚と表現能力を修養する。このような教育課程を通じて戯曲作家、シナリオ作家、ドラマ作家、放送構成作家、ウェブコンテンツのストーリーテラーなど様々な分野の作家を排出し、我々の文化芸術の発展に貢献することを目指している。

デザイン学部

School of Design

視覚デザイン専攻

創造の翼で飛翔する

視覚デザイン専攻では、芸術的表現と商業的効用性を繋げられる創意の人材を輩出する。様々な芸術分野と人文・社会科学の知識をもとに、体系的な芸術教育を受けられるよう教育課程を編成し、デジタルメディア社会における様々なニーズに応えられるデザイン専門人材を育成するための実務中心の専攻別プロジェクト式教育と、産学連携教育プログラムを実施している。また、専門人材が、韓国の伝統的美意識が投影された新たなデザインの方向性を提示し、固有のアイデンティティを確立し、教育的・社会的使命を果たせるよう努めている。

写真専攻

写真教育の地平と外延を広げ、写真の新世界の門を叩く

写真専攻では、写真家として確固たるビジョンを持ち、写真技術と諸般分野別制作方法論に長け、先端技術の力量と先鋭的な表現感覚を以て21世紀の情報化社会を先導できる人材を育成する。専攻教育の専門的インテンシブを基盤に、デザイン・映像・先端技術・企画の領域で他分野と幅広く連携・循環・統合し、実務能力の習得を図る。写真と文化・芸術および産業現場を主導する企業・機関・専門家たちとの協力関係を緊密にし、協同教育およびプロジェクトを活発に展開し、専門芸術家としての社会進出に求められる実質的な実務能力を育成する。

空間デザイン専攻

時間と空間を思惟する

空間デザイン専攻では、芸術的かつ創意的な空間づくりのための専門知識と技術を教育することで、生活の質を向上させる実用的な学問を練磨する。総合デザイナーとしての力を身につけるための芸術的素養と実技能力、人格を磨き、創意的な芸術教育を目指している。1年生課程では、空間デザインに対する包括的な理解と人間の生活環境および空間改善の重要性を認識し、空間を中心に創造できる能力を身につける。2年生課程では、空間デザインの様々な表現方法と新しい知識・技術をもとに、ポテンシャルと創意性を啓発する。3年生課程では、空間デザインの理論的概念と実務的解決法を統合し、実質的な学習を通じて空間デザインリーダー育成に注力する。



コミュニケーション学部

School of Communication



芸術創作基礎学部

School of Foundational Studies



広告創作専攻

芸術の温もりで世界を包む

広告創作専攻では、先進産業社会において必須芸術といえる「広告芸術の精神」と「技術の習得」を教育目標としている。広告とは、「資本主義」の存立と発展に必須の要素である。これは広告が、マーケティングやコミュニケーションの調和を通じて、経済や社会そして文化を動かす最も重要なエンジンの一つといえるからである。日進月歩するメディアに伴い広告の影響力もまた日々増大している。激しく移り変わる社会文化のパラダイムでは、よりハイレベルのコミュニケーション技術と卓越した専門家の役割が求められるようになった。広告創作専攻では、このような時代に求められる人材、「マーケティングを知るクリエイター」、「クリエイティブを知る marketer」、「理論と原則の土台の上で実践し行動できる広告専門家」を育成している。

芸術経営専攻

グローバル文化コンテンツ産業を率いる実験的かつ創意的な芸術経営者を育成する

芸術経営専攻では、民族芸術魂と伝統文化の価値をグローバル文化コンテンツへと昇華させ、グローバルレベルの文化芸術を享有できる機会の拡大を先導する文化企画者の育成を目標としている。韓国固有の文化資源を活用した実験的かつ創意的なグローバル文化コンテンツ制作を訓練するにあたり、次の3つの教育目標を据えている。^①芸術に対する美的アプローチとビジネスマインドのバランスが保たれた企業家精神の修養。^②公演芸術と映画・映像、ニューメディアテクノロジーなど、様々なコンテンツを融合した文化芸術商品の「企画・制作・流通」を網羅した専門知識および産業現場における実戦能力の育成。^③コミュニケーション能力や協同性、リーダーシップを兼備し、調和のとれた人間性を基盤に文化芸術組織を率いるグローバル文化企画者を育成する。

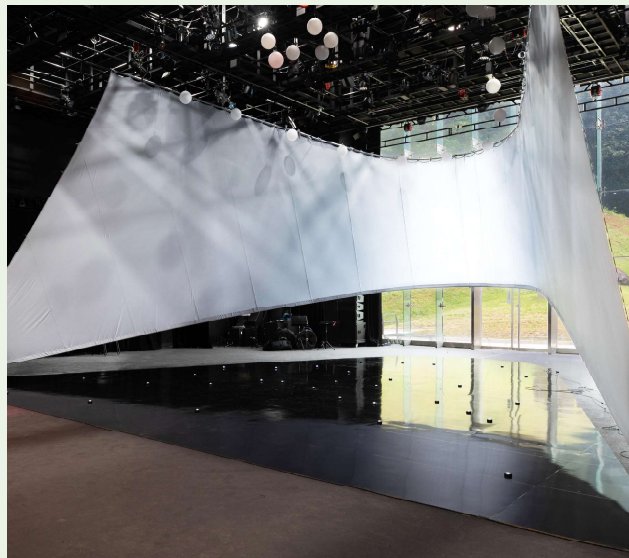
人文学的芸術観を持つ創意的人材・芸術ジャンルの架け橋として協業できる融合型人材・文化の多様性の価値を尊重するオープンマインドなグローバル人材

芸術創作基礎学部では、グローバル化時代の文化芸術家に求められる人文学的、科学的、言語的基本素養の修養を教育目標として据えている。また新たな人類共同体を模索する多元化、開放化時代の中で、韓国の芸術家として身につけるべき素養と知識の習得を強調するものである。これは人として生活の質を高め、人與人、社会と社会、文化と文化を繋げる能力を高めることを指す。人文社会の基礎、第4次産業革命とSTEMの基礎、創作の基礎、グローバル力量の基礎などに特化された教育課程を運営している。

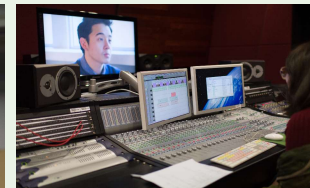
カルチャーハブ



創作実習支援センター



芸術工学センターATEC



芸術情報センター

